

- ☞ 我が国の研究開発活動の自律性の確保と国際的なオープンサイエンス推進の観点から、研究データの戦略的な保存・管理の取組とともに、研究成果のより幅広い活用が求められています。
- ☞ 令和3年4月に「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方」（統合イノベーション戦略推進会議）が策定され、公募型の研究資金の全ての新規公募分について、研究データの管理・利活用を図るため、DMP及びこれと連動したメタデータ付与を行う仕組みを2023年度までに導入することとなりました。

令和6年度から原則全種目（※）において、

- ☑ **研究開始にあたり、研究代表者にDMP（データマネジメントプラン）作成を求めます。**
(交付申請時に提出は不要)
- ☑ **実績報告書・実施状況報告書において、科研費により生み出され、公開した研究データに関する情報（メタデータ等）の提出を求めます。**

※ 対象種目

特別推進研究、学術変革領域研究（A・B）、基盤研究（S・A・B・C）、挑戦的研究（開拓・萌芽）、若手研究、研究活動スタート支援、奨励研究、特別研究促進費、特別研究員奨励費、国際先導研究、国際共同研究強化、海外連携研究、帰国発展研究

参考（用語の解説）

- **研究データ**：研究開発の過程で生み出される全てのデータで、電磁的な形態により管理可能なものをいう。
- **管理対象データ**：研究データのうち、研究者の所属する機関の基準等に基づき、管理・利活用の対象として、研究者がその範囲を定めるものをいう。
- **データマネジメントプラン（DMP）**：研究データの保存・管理、並びに、公開・共有、利活用に関する方針を定める計画書をいう。
- **メタデータ**：管理対象データを説明するための情報から構成されるデータをいう。

研究データの管理・利活用に当たっての留意点

【公開するデータ・提出するメタデータの対象】

- **論文の根拠データは原則公開（※）**。その他、研究開発の成果としての研究データについても可能な範囲で公開することが望まれます。

※「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」に基づく根拠データは令和7年4月以降に新たに行う公募から即時オープンアクセスが義務付けられています（P.22参照）

公開・共有のパターン						
メタデータ	A1	公開	A2	共有	A3	非共有 非公開
管理対象データ	B1	公開	B2	共有	B3	非共有 非公開
			B4	共有	B5	非共有 非公開
					B6	非共有 非公開

→ DMPの作成対象はすべて

→ 提出対象

【管理・利活用に当たっての留意点】

- **研究データは、オープン・アンド・クローズ戦略に基づき管理・利活用を行ってください。**
- **研究分野等の特性や、データを管理する組織の特性に配慮して、「公開」、「共有」又は「非共有・非公開」の判断が行われる必要**があります。
- 個人情報、企業の秘密情報、研究の新規性、我が国の安全保障等の観点から**留意すべき研究データは非公開**とすることが求められます。
- 産業競争力や科学技術・学術的な優位性を確保するためには、研究データを即時に公開することが適切でない場合もあり得ることから、公開による利活用の促進とのバランスを考慮しつつ、**適切なエンバゴ(時限付き非公開) 期間を設定することも可能**です。

研究機関では、管理・対象データの範囲や、それら研究データの公開・共有の基準等を定めた**データポリシーの策定**や、研究者がデータポリシーに則って研究データマネジメントを実施するための**環境や支援体制等の整備**をお願いします。

メタデータ報告の流れ

- ✓ 研究代表者は実施状況報告書及び実績報告書の一部として、研究データの情報（メタデータ等）を入力・提出してください。（研究データそのものの提出は不要です）
- ✓ メタデータ情報はKAKEN及びCiNii Researchに連携され、登録・公開されます。

日本学術振興会



採択研究者



JSPS
科研費電子申請システム

- 1 実施状況報告書及び実績報告書の一部として、**補助事業により生みだし公開した研究データの情報（メタデータ等）**を提出
※ 研究データそのものの提出は不要です

- 2 KAKEN*に登録・公開
*科研費DB

KAKENでの
活用イメージ

研究課題情報から当該課題で
生み出された研究データへアクセス可能

- 1-2
研究データ本体は機関リポジトリや
分野別リポジトリ等に格納

KAKEN

科学研究費助成事業データベース



CiNii Research

CiNii Researchとは？

NIIが管理・運営する学術検索基盤
一つの検索画面から多様な学術情報にアクセスできるもの

KAKEN や CiNii Research に登録、連携することにより、研究成果としての研究データへアクセスが容易になり、以下のようなメリットが考えられます。

- 他の研究者による利用（データ引用）や新たな研究成果が生まれ、自身の研究に対する評価や注目度の上昇や共同研究に繋がる
- 先行研究で生み出された研究データを自らの研究に活用できる可能性がある

3

代表者

科研費電子申請システム入力イメージ

- ✓ 研究代表者は「研究発表の入力」画面において、発表した雑誌論文情報と**その根拠データのメタデータ情報**を入力してください。
- ✓ 提出を求めるのは**公開している論文根拠データ**のメタデータ情報（非共有・非公開の根拠データについてはメタデータ情報の提出不要）です。

＜実績報告書作成 – 研究発表の入力画面＞

＜報告を求めるメタデータに関する項目＞

8. 掲載論文の根拠データのDOI・URL
9. データの名称
10. データの説明
11. データの分野
12. データの種類
13. 管理対象データの利活用・提供方針
14. リポジトリ情報
15. データ管理者

新規追加

新規追加

1. 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) DOI of Article (Digital Object Identifier)		5. 巻 Volume		言語の有無 Referee Reading (or not)	国際共著 International Publications	オープンアクセス Open Access
2. 著者名 Name of Authors		6. 発行年 Year of Publication				
3. 論文題名 Article Title		7. 最初と最後の頁 First and Last Page				
4. 雑誌名 Name of Journal		8. 掲載論文の根拠データのDOI・URL				
9. データの名称 Name of Data		13. 管理対象データの利活用・提供方針 Data Usage Policy				
10. データの説明 Description of Data		14. リポジトリ情報 Repository Information				
11. データの分野 Field of Data		15. データ管理者 Data Manager				
12. データの種類 Type of Data						

4

- ✓ 論文根拠データ以外に、研究開発の成果としての研究データがあれば可能な範囲で提出してください。
- ✓ ただし、オープン・アンド・クローズ戦略に基づき、研究分野等の特性や、データを管理する組織の特性に配慮して、「公開」、「共有」又は「非共有・非公開」の判断を行ってください。

<実績報告書作成 – 研究発表の入力画面>

【研究開発の成果としての研究データ】

1. 掲載論文の根拠データ以外の研究データのDOI・URL	6. 管理対象データの利活用・提供方針 Data Utilization and Provision Policy
2. データの名称 Title	7. リポジトリ情報 Repository Information
3. データの説明 Description	8. データ管理者 Data Management Information
4. データの分野 Research Field	データ管理機関 Hosting Institution
5. データ種別 Data Type	データ管理部署 Data Manager
	データ管理部署の連絡先 Contact of Data Manager

1. 掲載論文の根拠データ以外の研究データ
DOI | 10.1109/IGARSS.2015.7326867 DOIなし
URL | http://www.abxxxx.co.jp/ URLなし

2. データの名称
*****のデータ

3. データの説明
*****の説明

4. データの分野
ナノテク・材料 (Nanotechnology/Materials)

5. データ種別
編集データ (compiled data)

6. 管理対象データの利活用・提供方針

7. リポジトリ情報
*****リポジトリ情報

8. データ管理情報
データ管理機関
*****管理機関
データ管理部署
*****管理部署
データ管理部署の連絡先メールアドレス
lmnopqrstu@gmail.com

<報告を求めるメタデータに関する項目>

1. 掲載論文の根拠データのDOI・URL
2. データの名称
3. データの説明
4. データの分野
5. データの種別
6. 管理対象データの利活用・提供方針
7. リポジトリ情報
8. データ管理者

メタデータ情報入力項目

入力項目	説明
掲載論文の根拠データのDOI・URL	データのDOIが付与されている場合はDOIリンク、DOIが付与されていない場合は当該の管理対象データのランディングページのURLを記入。
データの名称	管理対象データの特徴を示す名称を入力 「学会資料」、「報告資料」、「測定結果」などの中身の分からない名称は避ける (例1) ○○実証においてセンサより撮像したデータ及び関連データ (例2) ○○のシミュレーションデータ
データの説明	管理対象データ取得時の条件や方法、結果等、当該データの内容を入力 (例1) ○○実証においてセンサより撮像したデータであり、道路の画像データ (例2) ○○のシミュレーションにおいて○○の条件のもとで得られたデータ
データの分野	e-Radの研究分野（主分野）からプルダウン選択。
データの種別	データの種別についてプルダウン選択。
管理対象データの利活用・提供方針	ライセンス情報を記載。データ提供者が利用者に求める利用条件（有償/無償やライセンス）を入力。流通性の担保のため、CC-BYのような略称ではなくURL表記が望ましい。 (例1) 流通性の担保のため、CC-BYのような略称ではなくURL表記が望ましい。 「 https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/ 」 (例2) 自由記述も可能。 「無償、但しクレジット表記と事前連絡を条件とする。」 (例3) 所属機関等のポリシーや個人情報等データの利活用に関し、制約条件がある場合は入力。 (例4) 制約条件や利用条件が無い場合も入力。 「 https://creativecommons.org/publicdomain/zero/1.0/ 」
リポジトリ情報	現在のリポジトリ情報、あるいはプロジェクト終了後のリポジトリ情報を入力 (例) ○○大学学術機関リポジトリ、生命科学系データベースアーカイブ、自社リポジトリ等
データ管理者	データ管理機関：各管理対象データを管理する研究開発を行う機関の名称 データ管理者：データ管理機関において各管理対象データを管理する部署名または担当者の名前を入力 データ管理部署のメールアドレス：個人情報保護及び管理対象データに興味を有する第三者が必ずデータ管理者にたどり着けるようにする観点から、個人ではなく組織の連絡先が望ましい。

- メタデータ共通項目については「公的資金による研究データの管理・利活用に関するメタデータ説明書」
<https://www8.cao.go.jp/cstp/metadainstructions.pdf>も参照ください。

- 📖 論文のオープンアクセス（OA）とオープンデータを含め、研究成果の共有・公開を進め、研究の加速化や新たな知識の創造などを促すオープンサイエンスの取組が加速しています。
- 📖 科研費は、これまで、研究成果の概要を国立情報学研究所のKAKENデータベース（外部サイト）で公開してきましたが、政府方針に沿って、日本学術振興会が交付する科研費をはじめとする研究資金による論文は原則としてオープンアクセスとすることとしていますので、**論文のオープンアクセス化の推進にご協力をお願いします。**

論文のオープンアクセス化とは

査読付きの学術雑誌等に掲載された論文を誰でもインターネットから時間や場所の制約なく無料でアクセスし入手できるようにすることです。

論文のオープンアクセス化によるメリット

① 学術研究の発展

論文のオープンアクセス化が拡大すれば、学術情報を様々な制約なく流通させ、また入手することが可能となり、学術研究の発展に寄与します。また、異なる分野の研究成果に触れることも容易になるため、研究の幅が広がり、さらには、世界の国々の情報格差の解消にも役立ちます。

② 研究者自身にとって

論文を発表した研究者自身にとっても、自らの研究成果に関する情報発信力が高まり、様々な利点が期待されます。

留意点（科研費における研究業績（論文等）の取扱いについて）

- ✔️ 科研費制度では、**応募者の研究計画の実行可能性を示すために、「これまでの研究活動の説明」として、論文等の研究業績の記入を可能としていますが、論文業績の網羅的な記載は求めています。**
- ✔️ 査読誌であることをうたいながら、著者からAPC（論文出版加工料）を得ることのみを目的とし、適切な査読を行わない悪質なオープンアクセス形式のジャーナル（いわゆる、ハゲタカジャーナル）の急激な増加が懸念されています。ハゲタカジャーナルに投稿することは、著者自身の信頼・評価の低下や投稿料トラブルなどの恐れがありますので、ご注意ください。

1

論文のオープンアクセス（OA）の方法について

論文のオープンアクセスの方法には、主にゴールドOA、グリーンOAの2種類があります。

① 学術雑誌を通したオープンアクセス（ゴールドOA）

OA論文を掲載している学術雑誌に、**著者側がAPC（Article Processing Charge: 論文掲載公開料）を支払って**、論文をオープンアクセス化する方法。

学術雑誌は、全ての論文をOAで掲載しているフルOA誌と、購読モデルの雑誌でOAの掲載も行っているハイブリッドOA誌に大別される。

→学術雑誌ごとにオープンアクセスに関するルールが定められているので、学術雑誌の投稿ルール等をご確認ください。

② 機関リポジトリを通したオープンアクセス（グリーンOA）

機関リポジトリで論文等の研究成果をオープンアクセスにする方法です。機関リポジトリによるオープンアクセス化に、原則**APCの支払いは発生しません**。なお、ジャーナルに掲載された論文をリポジトリに登録する際は、「著者最終稿（査読済み最終稿）の登録のみを許可する」「公開にあたって一定の公開不可期間（エンバゴ）を設けている」等、出版社による登録条件が指定されている場合があります。

→機関リポジトリへの論文登録に関して、詳しくは所属機関の図書館などの担当部署にお問い合わせください。

→ジャーナル掲載論文のグリーンOAの取扱いは出版社ごとに異なるので、出版社のルール等をご確認ください。

※プレプリント（査読前論文）サーバを通したオープンアクセス

所属機関のリポジトリが存在しない場合には、JSTが運用するプレプリントサーバ（Jxiv：ジェイカイク）を活用することで、論文をオープンアクセスにすることも可能です。

<https://jxiv.jst.go.jp/index.php/jxiv>

2

科研費におけるオープンアクセスの対応

公的資金のうち令和7(2025)年4月以降に新たに行う公募から、学術論文及び根拠データの学術雑誌掲載後、即時に機関リポジトリ等の情報基盤へ掲載することが義務付けられています。

即時オープンアクセスの対象は、以下の2つです。

- ✓ 査読付き学術論文：電子ジャーナルに掲載された査読済みの研究論文（著者最終稿を含む）
- ✓ 根拠データ：掲載電子ジャーナルの執筆要領、出版規程等において、透明性や再現性確保の観点から必要とされ、公表が求められる研究データ

科研費における対応

科研費の実施状況報告書・実績報告書において、学術論文及び根拠データの学術雑誌への掲載後の**即時オープンアクセスの実施有無**を報告してください。

※即時オープンアクセス対応ができない場合はその理由を報告してください。

- ✓ 「学術雑誌への掲載」とは、学術論文が電子版として学術雑誌に掲載されることを意味します。
- ✓ 「即時」とは、掲載後の公開禁止期間（エンバゴ）がないことを意味します。

実施状況報告書・実績報告書に入力された学術論文及び根拠データ情報は、KAKENデータベースへ連携され、研究データ基盤システム（NII Research Data Cloud）上で検索可能となります。

「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」（統合イノベーション戦略推進会議 令和6年2月16日決定）
https://www8.cao.go.jp/cstp/oa_240216.pdf

「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」（統合イノベーション戦略推進会議 令和6年2月16日決定）の
実施にあたっての具体的方策」（関係府省申合せ 令和6年10月8日改正）
https://www8.cao.go.jp/cstp/openscience/r6_0221/hosaku.pdf